

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	応答制御と減衰小委員会		主 査 名：新宮清志 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)		委員長名：和田 章 主 査 名：大森博司
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2010 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>シェル・空間構造物の減衰機構・減衰性能を明らかにし、さらに積極的に免震・制振等により応答制御を行い、構造物の地震・台風被害を低減することが重要と考えられる。そこで、本小委員会はシェル・空間構造物の応答制御および減衰の調査研究を行う事を目的としている。</p> <p>初年度： <ul style="list-style-type: none"> ・主として地震に対してのシェル・空間構造物の免震・制振・減衰に関する調査研究を行う。なお、減衰に関しては、比較的微少振幅の振動に対するものを対象とする。 ・書籍「シェル・空間構造物の応答制御と減衰」(仮題)の原稿執筆を開始する。 </p> <p>2 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・出版物の刊行を行う。 ・シンポジウム、講習会、セミナー等のいずれかを実施する。 ・比較的大振幅の振動に関する減衰の調査研究を行う。 ・応答制御が施されたシェル・空間構造物の減衰に関する調査研究を行う。 </p> <p>3 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・主として風に対してのシェル・空間構造物の制振・減衰に関する調査研究を行う。 ・比較的大振幅の振動に関する減衰の調査研究を行う。 ・応答制御が施されたシェル・空間構造物の減衰に関する調査研究を行う。 </p> <p>4 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・大会 P D、シンポジウム、セミナー等のいずれかを実施する。 </p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>主査 新宮清志(日本大学) 幹事 立道郁生(明星大学) 幹事 山田耕司(豊田工業高等専門学校) 委員 青木義男(日本大学) 入江寿弘(日本大学) 大木洋司(東京工業大学) 瀧 諭(清水建設) 谷口与史也(大阪市立大学) 中澤祥二(岐阜工業高等専門学校) 西田明美(日本原子力研究開発機構) 福住忠裕 松野浩一(東洋大学) 水谷太郎(大成建設) 吉中 進(大阪市立大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2008 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s18/	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	<p>名 称：第7回新「シェル・空間構造」セミナー 応答制御技術が開く空間構造デザインの可能性 2008</p> <p>参加者数：106 名</p> <p>資料名：名称と同一（64 頁）</p> <p>開催日：2008 年 6 月 27 日（金）</p> <p>会 場：発明会館ホール（虎ノ門）</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	<p>1．小委員会設立当初は、前年度（2007 年度）に行う予定のセミナーを今年度に行うことになった。関係者の努力により成功裏に終わったと考えている（参加者は前述のように 106 名）。</p> <p>なお、セミナー開催が遅れた理由は、書籍「シェル・空間構造の減衰と応答制御」の出版が遅れたためである（2009 年 3 月出版、学会直営）。</p> <p>2．目標の達成度は、85%程度と考えられる。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1．二つの大きな目的を達成したことにより、第7回新「シェル・空間構造」セミナー開催後は、委員会への出席者が少なかった。</p> <p>2．来年度が最終年度であるので、次のセミナーあるいはシンポジウム（2009 年秋期に開催予定）に向けて再度活発化する必要がある。</p>